

平均点が男子 73 点、女子 74 点と前年度よりも上がり、高い平均点となりました。その高い平均点の中で、もう少し得点しても良いと思われる箇所について以下に述べます。

大問 1 は前年度と同様に、基本的な知識の小問集合的な問題として出題しました。一番良くできていたのは(7)でした。それに対して、一番できていなかったのは(8)、それに続いて(5)、(6)の得点がよくありませんでした。学校の授業や新聞、テレビなどを通じて、身の回りの科学的現象についてもっと関心を持ってください。

大問 2 は動物の特徴に関する問題で、全体として一番良くできていましたが、(5)でタニシ、(8)でトノサマガエルを選んでしまう間違いが多くありました。また、カタカナの書き分けがはっきりしなかったため正解にできない答えがありました。他の問題にも当てはまりますが、正確に書くように意識してください。

水溶液の性質と実験方法に関する大問 3 は、典型的な出題形式で、特に(3)(4)はぜひできてほしい問題であり、実際に良くできていました。それに対して、(7)は減点されるケースが多く見られました。間違えた答えの中からも、知識を持っていることは感じられますが、さらに質問の内容を的確に捉え、述べたいことを端的に表現する力が重要です。また、(2)のように字数制限がある場合、最大字数の 7 割以上は記入してください。

大問 4 は植物の実の特徴に関する問題で、良くできていました。特に(4)は高い正答率でした。間違いとして多かったのは(1)の A とイで、答えを反対に書いているものが目立ちました。検さく表を正しく使えていないか、使えていても実の特徴を文章から読み取るのではなく、見た目の印象で答えを選んでしまったのではないのでしょうか。また、他の不正解としては、(2)で花粉、(3)の②で表現不足、(5)で光をあげたものがありました。

太陽と月と星の動きに関する大問 5 は、後半のできが良くありませんでした。問題文をよく読んで、問題の図などをヒントにイメージを作ることができれば、得点につながります。日頃の観察もぜひ行ってください。

大問 6 はふり子の性質に関する問題で、(1)の正答率が低くなりました。見慣れない単位が登場しましたが、問題文の条件をつかって、単純に比で考えていけば答えられる問題でした。(3)と(7)は図を用いて説明してもらう形式の問題で、工夫された答えがあり、良くできていました。しかし、問題文中のヒントを読みとれず、また、正確に表現することができずに、不正解になったものも見られました。

全体としては、基本的な内容を質問している問題が多く、そこでの失点が得点の差を生じさせています。過去にも出題され、良くできていた問題であっても、質問の仕方が変わるとできなくなる場合が見受けられます。言葉をただ覚えるのではなく、その言葉の持つ科学分野における意味を正確に理解して、いろいろな問題に対応できるようにしてください。理科でも言語活動は大切だと考えており、言葉の理解度と表現力は今後も重視していきます。

理 科 模 範 解 答

受験番号

0000

①	(1)	×	(2)	×	(3)	×	(4)	○	(5)	×	(6)	○	(7)	○	(8)	○	
②	(1)	ク	(2)	キ	(3)	エ	(4)	ウ	オ	(5)	エ	ケ	(6)	ア	ク		
	(7)	イ	カ	(8)	ア	イ	ウ	エ	カ	ク							
③	(1)	A アンモニア水				B 塩酸				C 炭酸水							
	(1)	D 水酸化ナトリウム水よう液								E さとう水							
	(2)	手	で	あ	お	ぐ	よ	う	に	し	て	か	ぐ				
	(3)	イ	(4)	アルカリ性				(5)	石けん水				(6)	C			
	(7)	ガラス棒をつたわらせていない。															
		ろうとの先端がピーカーの壁についていない。															
④	(1)	ア カエデ				イ ウバユリ				ウ ススキ				エ タンボボ			
	(2)	動物の毛について運ばれる。															
	(3)	① 移動							② 絶滅する								
	(4)	③ 長い				④ A		⑤ B									
	(5)	水				空気(酸素)										温度	
⑤	(1)	ウ				(2)	ア, ウ				(3)	エ					
	(4)	ア				(5)	ア, イ				(6)	エ					
	(7)	ア				(8)	ア										
⑥	(1)	オ	(2)	ウ	(3) 下へ記入	(4)	エ	(5)	ウ	(6)					ア	(7) 下へ記入	(8)
	(3)					(7)											
	(9)	軽い				ずれないように、 5円玉をぴったりと重ねて しばってつるす。											

M 2 4